

国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨（令和4年度第6回）

開催日 令和5年3月13日（月）
 場所 百周年中村記念館特別会議室、オンライン
 出席者 【対面】小笠原委員、高原委員、前田委員、宮武委員（五十音順）、
 学長、理事（教育接続・連携PF担当）、理事（研究・社会連携担当）、理事（総務・経営改革担当）、
 理事（ダイバーシティ&インクルージョン担当）、工学研究院長
 【オンライン】麻生委員、有松委員、井上委員、鶴飼委員、久保田委員、松岡委員（五十音順）、
 情報工学研究院長、生命体工学研究科長、教養教育院長
 列席者 近藤監事、林田監事
 会議成立 構成員21名のところ、19名の出席により定足数を満たしていることが確認された。

議題	NO	議題	結果	主な意見
議題 1	(審議事項)	令和5年度学内予算編成方針（案）について	原案のとおり承認	<p>ODXに対する戦略的な投資とは具体的にはどのようなことか。また、教育的又は事務的どちらのDXなのか。（学外委員） →学生の躰きをすぐに発見できるよう学生の情報を分析している。分析ができるデータセットを揃えるなど、教育のDXを図ろうとしている。また、工業大学であるもののデジタル化が遅れており、業務面ではシステムが乱立している中でデータを中心にして如何に進められるか検討し、投資していこうとしている。教育・業務両面での内部システムの改善を図る。（学内委員） →正規職員を10名増、業務支援職員5名減とすることとDXとの関連は？（学外委員） →全学的なDX投資を計画しており、総務人事業務の効率化のプロジェクトを実施している。その中で人事評価の見直しを行っており、人事評価システムのデジタル環境的に遅れている部分を、外部のコンサルを入れながら効率化を目指す計画としている。（学内委員） →残業時間が多いという実態があり、残業の削減が生産性の向上に直接関わるため、喫緊の課題と考えている。（学内委員）</p> <p>OP9の2023年の収入合計とP7の収入予定額に差があるのはどういうことか。（学外委員） →P7は文科省からの至達金額を記載しており、P8-9は至達金額に外部資金やエネルギー高騰に伴う補填費用等の経費を含めた大学全体の収入金額を記載している。（学内委員）</p>

議題	NO	議題	結果	主な意見
				<p>○予算編成方針に「各本部長のもと以下の重点事項に戦略的に取り組む」とあるが、それぞれの本部長の担当がわかるような書きぶり、図などあった方がわかりやすいのではないか。また、DXを強化することだったが、来年度のDX戦略費が少ないのはなぜか。（学外委員） →教務情報システムの入替費用が2022年度予算に大きく含まれているため、大幅に減額するように見えている。またDX戦略費に計上されていないものの、実際にはDX戦略に充てる経費が別途あることが明示できていない書きぶりとなっている。（学内委員） →本資料において担当本部長がわかる記載がないが、通常は担当がわかるような内容としている。（学内委員）</p> <p>○研究戦略経費について、社会的なインパクトを実現する出口的な産学官連携をイメージした研究戦略ではないかと推察する。一方、基盤的な研究拠点を形成しながら、学術的な研究領域を発展させていく大学本来の基礎的な研究という研究戦略もあると思うが、研究拠点を形成するような考えはあるか。（学外委員） →社会実装に力を入れていく方針だが、基礎研究にも投資をしていく予定。研究分野を発掘するようなものをヒアリングを通じて掘り上げていく取組を行っている。大型の研究拠点については、本学の研究センターを軸に外部資金を獲得し、その予算をもって国際的な拠点形成をするよう進めている。社会実装を含めたイノベーション創出と、これからのテーマの部分のバランスを取りながら予算を組んでいく。（学内委員）</p> <p>○授業料免除の予算が減少している。学部は家計基準に応じて一括して授業料の免除枠が拡大されているものの、大学院については全く手当てされておらず、第3期まで文科省が一定額を措置しており、第4期も継続になると思われるが、授業料免除枠についてどのように考えているか。（学外委員） →本学では大学院を含めて授業料免除を手当てしてきた。その中で文科省が学部の整理をし始め、本学が手当てしてきたところが22、23年度に計上されている。授業料免除に限らずTAやRAという形で学生を支援することもできるため、どのように定常化させるかを検討している。手当てのためには原資が重要であり、大型資金を獲得し、間接経費などの自由に使える原資を増やしていく必要がある。また、地方創成のパッケージで様々な形が出てきており、本学に合ったところを獲得し、外部収入を得て手当てをしていくよう考えている。（学内委員）</p>
議題2	(報告事項)	令和5年度経営協議会開催日について		

議題	NO	議題	結果	主な意見
議題3	(その他)	令和4年度若手工学アカデミーの活動について		<p>○良い取組であり、継続が必要。学生との関わりを強化して、若手工学アカデミーらしい活動に繋げていければより良い。明専会報に掲載するなど、広報にも力を入れては。(学外委員)</p> <p>○コロナ禍前は若手が集まれる機会があったのではないと思うが、コロナ禍を経て、今後規制が緩和された場合に活動に変化は生じるか。また、コロナ禍前と今とで若い方の目を向ける対象が変わっているような部分があるか。(学外委員)</p> <p>→時間がかかっても集まることに意義があるようなイベントを開催したい。意見交換はweb会議を活用し、幅広い意見を募れるようにしていきたい。若い方の目を向ける対象として、web会議やテレワークなど働き方に自由度が増したことがある。働き方の選択肢が増えて、それぞれの選択肢をどう活かすかについてはよく議論になる。(発表者)</p> <p>→コロナ禍前にアカデミーの立ち上げを検討していたが、実際はコロナ禍に入ってから立ち上げとなった。コロナ禍前は飲み会が主な交流の場だったが、コロナで飲み会ができなくなり、飲み会以外のコミュニケーションツールが発達したので今後も活用していきたい。(発表者)</p> <p>○若い人を集め、分野の異なる人を集めたという点が良い。メンバーはどのように集めたのか。(学外委員)</p> <p>→40歳以下は全てメンバーとなっているが、幹事は各職種やキャンパスから募集した。(学内委員)</p> <p>○大学として今後優秀な学生、教職員の獲得が重要であり、このような活動について職員採用情報のページなどにリンクを掲載し、応募のモチベーションアップに繋げては。(学外委員)</p> <p>○40代以上の教職員に対しても何か仕掛けができないか。また若い方はメールを好まない傾向があるように感じるが、メンバー間のやり取りはどのようなツールを活用しているか。(学外委員)</p> <p>→コロナ禍でなかなか活動ができず、今年度はメンバーでの活動を主に行ったが、来年度は他世代との交流も図りたい。ツールとしては主にTeamsでざっくばらんな意見交換をしている。メールは広報の際など。(発表者)</p> <p>→若手から意識の変革を始めることができる。現在のメンバーがこれから40代、50代となっていく、アカデミーを卒業した後に活躍に繋げてほしいと考えている。(学内委員)</p> <p>→財政的に大学へ何を要求したいか。(学外委員)</p> <p>→アカデミーのメンバー職種が多岐に渡るため、研究者であれば研究費やそのサポート人材、事務であればDXの費用など、職種により要求は異なると思われる。アカデミーとして議論し、優先順位を付け、執行部に提案していく必要があると考えている。(発表者)</p> <p>○活動について飲み会ありきでなくなったという話だったが、幹事に女性の教職員はどのくらい参加しているか。リモートで参加できるのであれば、ライブイベントが多い40歳未満の女性も参加しやすくなると思われる。(学外委員)</p> <p>→幹事では12名中3名が女性であり、職種や性別の多様性の確保をしたいと考えている。(発表者)</p>
議題4	(その他)	令和4年度成果発表 ・ひびきのスマートクリエイション (すぐ創る課)		<p>○取組をサステナブルにしていくために、ある程度のビジネスになるように工夫していくということなので、色々なサポーターと一緒に活動し、研究のサポートや個人個人に何らかの報酬が渡るようなことを含めて進めていけるよう頑張してほしい。(学外委員)</p> <p>○行政では政策立案に時間がかかり、行動が伴わずジリ貧になっている現状がある。すぐ創る課というネーミングからして素晴らしく、資金も獲得できている。情報工学のエキサイトメントを体感する機会としてこの活動が広がっていくことを期待している。(学外委員)</p>
議題5	(その他)	令和4年度成果発表 ・飯塚未来開発		<p>○西海市や飯塚市と連携したということだが、九州だけでも230ほど、全国では1800ほど市町村があるのでもっと活動範囲を広げては。(学外委員)</p> <p>○学生と行政のwin-winで市長なども巻き込み、九州全体の行政の合理化や明るい職場づくりに携わるよう活躍の場を広げては。(学外委員)</p>